

- TP用複写紙（ネガ紙）を使用する。
- 露光時間を調節する。
できあがったTPの文字などが薄いときは露光時間のかけすぎ、原稿の白い部分まで黒っぽくなったときは露光時間の不足。
現像液の温度が低いときは露光時間を少なめにする。
- TPポジフィルムを使用する。
- フィilmと同じ会社の現像液をできるだけ使用する。
- ネガ紙とポジフィルムを互いに膜面を合わせ別々の挿入口から入れる。
そのときネガ紙とポジフィルムがずれないようにする。
- 現像後20～30秒間放置し、ネガ紙をはがし、水洗いする。

- 水滴防止液（写真用ドライウエルなど）
- 直射日光をさけ乾燥させる。
- 消したい個所があるときは消去液（A液・B液）を用いて消してから水洗いする。

（消去液）

A液	B液
水…………… 500cc	水…………… 500cc
塩化第二銀…………… 180g	無水亜硫酸ソーダ…70g
塩化ナトリウム…………… 180g	重亜硫酸ソーダ…30g
濃塩酸…………… 3cc	ハイポ…………… 300g
これに水を加えて1,000ccにする。	これに水を加えて1,000ccにする。

はじめにA液を筆につけて消去し、10秒後A液を除き、B液をぬる。

イ ジアゾ方式による作成法（ジアゾ染料の発光性を利用したもの）

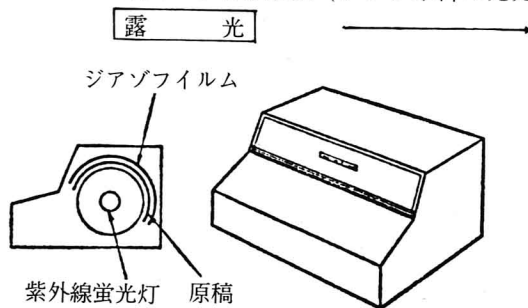


図40 ジアゾ方式による複写機

- 感光フィルム（ジアゾフィルム）にはリコービューフォイル（4色）、サクラカラーホイル（6色）がある。
- 原稿は透明または半透明（コピー用紙など）にかかれたものに限る。
- 原稿とフィルムの膜面を向い合わせにし露光器に図のように入れる。
- 露光時間をセットし露光する。
- 露光器がないときは太陽でもよい。

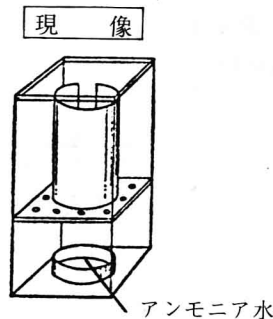


図41 ジアゾ方式現像器

- アンモニア水を使用し現像する。
- 古い液を使用すると現像に時間を要するとともによく発色しないことがある。
- 風通しのよい部屋で行う。
- 未使用のフィルムにアンモニアガスがふれないように注意する。

ウ 感熱方式による作成法

○ クセノンランプ使用方式

トラペンアップ等のクセノンランプ使用のTP作成機のステージ上にTPシートを置き、その上にカーボンを含んだ鉛筆や謄写インクを用いた印刷物の原稿を置いて、

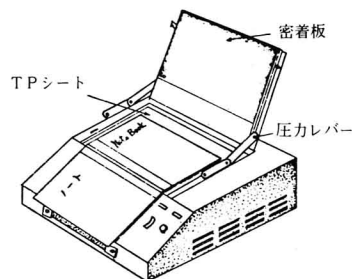


図42 クセノンランプ使用複写機